

【泉大津市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続けることが求められている。GIGAスクール構想の一層の推進により、これまでに培われてきた1人1台端末の活用による児童・生徒の主体的な学びをさらに促進する。また、1人1台端末および高速大容量ネットワークを中心とするICT環境を、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために最大限活用するとともに、合理的配慮の視点に基づく活用場面が日常化することにより、すべての児童・生徒が自らの課題意識に基づく学び方を身につけ、課題解決に向けて主体的に取り組む姿の実現をめざす。

2. GIGA第1期の総括

文部科学省によるGIGAスクール構想に基づき、令和2年度にすべての児童生徒へ1人1台端末を配付するとともに、市内小中学校へ高速大容量ネットワークを整備し、普通教室だけでなく校庭や体育館でもインターネットへ接続できる環境を整えた。また、令和3年度には特別教室へもネットワーク環境を拡充するとともに、全ての普通教室へ大型提示装置の整備を完了した。

また、貸出用モバイルルーターの整備を行い、令和3年度から1人1台端末の持ち帰りを実施し、家庭学習においても端末を活用している。

これらのICT環境の整備に加え、本市では令和2年度からICT支援員による教職員のサポートに努めてきた。支援内容としては、機器の不具合に関する問い合わせ等の対応に加え、ICTを活用した授業づくりに関するアドバイスや授業の質の向上をめざした市主催の研修会でのサポート等がある。

これらの取組みの主な成果として、以下が挙げられる。

- (1) 各学校における児童生徒の端末活用率が大幅に向上した。令和5年度の調査では小学校6年生の63.0%、中学校3年生の63.1%が、授業におけるICT機器の使用に関して「ほぼ毎日」と回答している。
- (2) 学習者主体の学びに向けて、パソコンや提示装置を活用して資料を効果的に提示し、授業改善に取り組む教員の意識が向上した。令和5年度の調査では小学校98.5%、中学校93.1%の教員が取り組んでいると回答している。

一方で、主な課題として、以下があげられる。

- (3) キーボードの故障が増加しており、その多くが自然故障のため保険で補填することができない状況である。第2期に向けては、契約形態を見直し、常に適切な状態で端末を使用できる環境を整える。
- (4) 学校の実際の通信速度は、文部科学省が示す「学校規模ごとの帯域の目安」を満たしておらず、今後デジタル教科書の使用が拡充していくことから、回線契約の見直しや機器の増強が必要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和7年度に予定している1人1台端末の更新に際して、以下の方針で利活用を推進する。

(1) 1人1台端末の積極的活用

児童生徒の「資質・能力」の育成をめざし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るため、1人1台端末環境を引き続き維持する。また、各学校のニーズや課題に応じた教員向けの研修の実施等により、具体的な利活用事例を提供することで授業等での利活用のハードルを下げる、積極的な活用を促す。

(2) 個別最適な学び・協働的な学びの充実

児童生徒が「自分で調べる場面」、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」、「児童生徒同士がやりとりする場面」、「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」の5つの場面における具体的な活用方策について、活用事例の情報共有や協議などを行い、市域の学校教育の質の向上を図る。さらに、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた学びを進めるために、自由進度学習等、本市における先進的な学校の取組みや府のリーディングDX指定校等の取組みについて紹介し、各学校において研究が深まるよう取り組んでいく。

(3) すべての児童生徒の学びの保障

1人1台端末の日常的な利活用を継続するとともに、不登校児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒及び特別な支援を必要とする児童生徒等に対し、1人1台端末を活用することで学びの幅を広げ、様々な状況の児童生徒の学習機会を確保していく。

また、1人1台端末を適切に整備・更新するだけでなく、端末が故障・破損した場合でも、予備機の運用及び速やかな修繕を実施し、1人1台の端末環境を維持する。